一誌一句（受贈誌３・４月号他より）

米田　透　抄出

鶏のやうな声あげ寒稽古　（ハンザキ）　橋本　石火

節分の豆撒く前のつまみ食ひ　（　秀　）　染谷　秀雄

地球から抜かれておらが大根となる　（山　河）　山本　敏倖

狐火や今年逝きたる人の数　（　犀　）　桑原　三郎

恋をして消えてしまった雪達磨　（　槐　）　髙橋　将夫

方言の睦む出雲の垂り雪　（草　炎）　久行　保徳

城跡の落葉を踏めば鬨の声　（爽　樹）　河瀬　俊彦

初鏡傘寿の吾に出会ふとは　（春　耕）　蟇目　良雨

寒夕焼いづれは灰と化す身かな　（山　彦）　河村　正浩

卆寿まであと一と年の弥生かな　（山　繭）　宮田　正和